

設計製造技術研究所(AMTI)の自己評価・外部評価結果

2019年度 6月 設立	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度 報告書作成 外部評価	3月 Web 公表
4年度分の自己点検報告書を作成 → 外部評価を依頼					

I 研究所の概要	研究所の設立目的・使命, 専任教員数, 賞罰
II 研究業績	研究論文, 基調講演・招待講演, 著書, 総説等, 特許等, 実用化実績
III 研究費獲得実績	科研費, 政府出資金事業等, 共同研究, 受託研究, 財団等の助成金(賞), 寄附金
IV 社会貢献	シンポジウム開催実績, 学会の講習会やセミナー等を通じた社会人教育実績

公表用の報告書は共同研究先等を考慮した簡略版



A~Dの4段階で評価

外部評価委員

産 :
官 :
学 :

産・官・学からトップレベルの
専門家・有識者 各1名に依頼

	産	官	学
研究成果	研究成果の量・質ともに高いと考える。 専任教員が毎年,学会等で表彰されている。 A	数多くの査読付き論文、中でもIFの高い学術論文が掲載→国内外において優れた研究成果。 基礎研究から実用化研究に至る各研究テーマの相互のつながりが不明確→どのフェーズまで進展しているかわかりづらい。 A	使命に沿って最先端の研究を展開。 citation18~13の論文が4報, 基調講演が12件→国際的にも注目。 論文賞・奨励賞12件受賞&科研を安定的に獲得→研究の質の高さ維持。 A
上記の課題	学会における講演数を増やすと良い。	特許件数がもっと多くあるべき。 具体的な出口を外に向かって発信すべき。	科研A,Bの獲得が少ないかも？
社会実装	社会実装の量・質ともに高い。 シンポジウムに海外からも含め最先端技術の講師を招聘。 A	シンポジウムに多数の参加者→評価できる。 共同研究による外部資金の獲得→評価できる。 政府出資金事業等の獲得→評価できる。 B	研究成果の社会実装にも積極的に取り組んでいる。研究所主催のシンポジウムに多数の参加者。 A
上記の課題	シンポジウムのWEB配信に加え,アーカイブ(録画)の公開は？	地域企業との共同研究や競争的資金による産学官連携研究のさらなる推進を期待する。	研究所のミッションを保持しながら,基盤と応用・展開のマネジメントを。
その他全般	公開されている研究所のホームページが見やすい。 A	さまざまな専門分野の研究者を結集させた強みが十分に発揮されていない感がある。 B	ニーズをとらえながら基盤をどのようにマネジメントしていくかが重要。 B
上記の課題	ホームページに社会実装の実績の記載がほとんどない。	事業目標や計画、研究所で定めたKPI等の評価基準となる資料も加えて欲しい。	とくになし。